

調査研究活動実績

氏名 武石 利彦

令和3年度の政務調査研究に関する主な活動の実施状況を報告いたします。

1. 中山間地域対策の調査研究

中山間地域における高齢者の見守り、買い物弱者対策、移動手段の確保などについて調査研究および、手段の一つであるドローンの活用について調査研究を行なった。また集落活動センターの取り組みにおける成果と課題を探るとともに、事業の安定継続に向けた課題の調査も行なった。また地域おこし協力隊の活動についての調査研究も行った。

2. コロナ禍への対応について調査研究

コロナ禍における働き方の変化に対応するため、テレワーク、ワーケーション拠点など受け皿作りのための調査および、コワーキングスペースの設置に向けての取組も行った。これに伴い都市部を脱出する人々の移住政策としても位置付け、中山間対策の一環とするための活動を行なった。

コロナ禍における飲食店および納入業者などの経営への影響、行政からの支援策の浸透具合について、またひとり親家庭などの生活への影響を調査し、執行部に報告するなどの活動を昨年度に引き続き行った。

観光客が大幅に減少するなどして甚大な影響を受けている、旅館ホテル関係者、公共交通関係者からの聞き取りを昨年度に引き続き実施し、執行部と情報共有し施策への反映に努めた。

3. 動物愛護についての調査研究

保護犬、保護猫の増加が地域社会の課題になっている中、ボランティアの保護活動について調査研究を行なった。TNR活動の推進や獣医師の支援体制の構築に向けた活動、および他県で設置が進む小動物愛護センターの建設に向けた提言も行なった。

4. 健康長寿づくりについての調査研究

高齢者のフレイル予防についての調査研究を行なった。

特に医療機関との距離が遠い中山間地域の高齢者に向けた対策は急務である。

昨年に引き続き、医療関係者、薬剤師などと協議を進め、高齢者の健康長寿を延ばすための仕組みづくりに取り組んだ。

具体的には健康の基礎となる運動の場づくり、適切な栄養指導体制の構築、健康づくりの進捗状況や成果と課題の把握に努める仕組みづくり。

引き続き、今後は相談、アドバイス体制の構築に努め、実践者がやりがいを感じられるようなインセンティブの導入に取り組む。

5. 災害に強い県土づくりにむけた調査研究

南海地震対策はもとより、本県特有の課題でもある台風による豪雨災害などに強い県土づくりに向け、豪雨災害の被災地におけるドローンによる状況撮影などに行き、現状把握と再発を未然に防ぐための対策について調査研究を行なった。特に中山間地域においては崩土、落石による集落の孤立の解消、通行の安全確保などの課題解決について取り組みを進める。

6. グリーン化、デジタル化の調査研究

SDGsの取り組みを推進し、県勢浮揚に繋げるための調査研究を行なった。

一次産業分野におけるデジタル化の取り組みの調査研究を行なった。中山間地域では基盤となる通信環境の脆弱性、担い手不足や採算性などの課題はあるものの、デジタル化の推進は焦眉の急である。またグリーン化についても中山間地域の活性化の好機と捉えることが重要であると捉え、林業や農業分野から脱プラスチックの製品を生み出すことについての調査研究も行なった。

7. ジビエの普及に向けた調査研究

林業現場において鳥獣被害対策は急務である。そこで駆除された鳥獣をジビエ料理に活用することは中山間地域の地域おこしや魅力づくりにも直結する。そこでジビエ料理用の肉として活用する取り組みを視察調査し課題を探った。

良質なジビエ肉を供給する体制の確立と販路の安定確保が課題である。ジビエ肉の処理については須崎市や梶原町では地域おこし協力隊や地域住民の活動の場にもなっており、地域活性化に有効に働いている。更に販路拡大に努めれば地域の基幹産業に発展する可能性が高い。

以上